日本赤十字社 和歌山医療センター
Japanese Red Cross Society
医療連携だより 夏号
No. 86

和歌山市小松原通四丁目20番地
TEL：0120-965-582（医療連携課）
FAX：0120-937-510（医療連携課）
（発行責任者）
管理局長　内田 一彦
e-mail：renkei@wakayama-med.jrc.or.jp

就任のご挨拶

血液内科部長
岡　智子

この度、6月1日付で血液内科部長を拝命しました。

私は、平成（H）13年に大阪医科大学（現：大阪医科薬科大学）を卒業後、大阪医科大学附属病院第一内科で研修を積み、同院血液内科に入局しました。H 18年から3年間、自治医科大学血液学講座および輸血細胞治療部にて血液学と輸血細胞学について勉強をさせて頂きました。H 21年から大阪医科大学付属病院で勤務後、H 24年に当センターに着任いたしました。

血液疾患は、一般的に患者数の少ない領域のため、血液内科を標榜している病院、医師数は少ない分野ですが、近年、血液疾患は増加傾向です。血液塗抹検査、フローサイトメトリー、遺伝子検査、病理組織検査などから総合的に診断を確定します。遺伝子変異解析の進歩が目覚ましく、疾患の予後に反映されます。治療は、化学療法、免疫療法、移植などがあげられますが、新規抗体薬やCAR-T細胞療法など新しい免疫細胞治療など進歩が大きい分野です。治療の進歩により治療成績の向上がみられる疾患もありますが、まだまだ難治性の疾患が多く認められ、このような症例をいかにして克服できるかが、今後の課題です。

診療・治療に際し、ガイドラインや最新文献をもとに、患者さんに応じた治療法の開拓・改善に努めております。また、私は、大阪医科大学の花房俊昭教授、自治医科大学の高久史麿学長、小澤敬也教授、室井一男教授、森政樹講師、そして京都大学医学部付属病院長　髙折晃史教授に師事し、フローサイトメトリーを用いた血液学および輸血学の研究を行ってきました。その経験を実臨床に役立て、積極的に学会や医学雑誌へ発表しております。Leukemia Lymphoma掲載論文「Clinical effects of CD33 and MPC-1 on the prognosis of multiple myeloma treated with bortezomib」が、本雑誌のCommentaryで紹介され、CD33とMPC-1の表現パターンと形態学的な関係が治療反応性とよく相関していると高く評価されました。Ann Hematologyに掲載された論文「Successful treatment with azacitidine for the simultaneous occurrence of multiple myeloma and acute myeloid leukemia with concomitant del (5q) and the JAK2 V617F mutation」では、閲覧者数が1,480件を超え、雑誌より感謝のメールを頂きました。また、執筆論文は、引用されることが多く、自分自身の励みになっております。

私が、医師として心がけていることが、3つあります。

①「患者さんには自分の家族と思って接する。」は、研修医初日に花房俊昭教授からうけた訓示です。

②「外来をするということは、その患者さんの一生を診させて頂くことである。」は、恩師である室井教授から教わった言葉です。患者さんから「医師にとっては大勢の患者の中の一人にしかすぎないが、患者にとっては、主治医は一人なんや」といわれ、はっとしました。

③「患者さんは人生の先輩である。人を敬う気持ちを忘れてはいけない。」は、森講師から教わりました。医師や医療従事者である以前に「ひと」であることを心がけています。

さらに最近読んだ岡潔先生の本に“真我（本当の自分）の心は同体体悲である”、つまり、本当の自分の心とは、ひとの心の悲しみを自分の心の痛みのごとく感じる心であり、それを目指すべきと記されており、常に患者さんによりそえるよう努めて参りたいと考えております。

血液内科は本年3月に3名退職し、4月から和歌山県立医科大学より赤木佑衣奈先生を迎え、現在常勤医2名で外来・入院診療を行っております。外来および病棟スタッフの協力のもと、滞りなく行えていると思いますが、新体制になったばかりでまだまだ不慣れなところもあり、近隣の先生方にはご迷惑をおかけしております。今後も少しでも多くの患者さまにお役にたてるように日々精進してまいります。

よろしくお願いいたします。

就任のご挨拶

心療内科部長
阿　部　哲　也

この度、2023年７月１日付けで心療内科部長を拝命することとなりましたので、ご挨拶申し上げます。

平成８年に大阪市立大学（現：大阪公立大学）を卒業し、大阪市立総合医療センターで初期研修を受けました。病を患った人の心理面や生活への関心から、学生時代には精神医学に興味がありました。臨床に従事してからは内科医も意識し始めたのですが、そこで心療内科の存在を知りました。こころのことも身体のことも考えることが出来る点に強く惹かれ、平成10年に関西医科大学心療内科学講座に入局しました。以降、主に同大学病院での臨床・研究・教育に携わってきました。

心療内科では、検査で異常の見つからない症状に悩まされる方の診療に携わることが多く、長引く痛みはその特徴を示しやすい症状の１つです。そのような病状における中枢の病態に興味があり、平成13年から大学院で４年間、慢性疼痛における中枢神経系での可塑的変化の基礎研究に従事しました。そのうち１年半の間、国内留学の形で和歌山県立医科大学にお世話になったのが、私と和歌山の最初のご縁になります。中枢と末梢の繋がりを研究する面白さと併せて、どんなに心理的側面が大きく見えても、痛みを抱えた人の体には変化が起きているという確信を得ることができ、診療場面で患者さんの訴える痛みの真偽を疑いたくなるような迷いがなくなりました。

また、高校時代からカウンセリングに興味がありました。医師・患者関係や共感といった対人場面の中で重視されるコミュニケーションを研究したいと考え、平成24年から２年間、米国のUCLA社会学教室で会話分析という質的研究法を学びました。これは当事者たちのその場での変化する主観を、会話データから客観的に解明するものです。主に社会学者、言語学者、人類学者などが活用していますが、日本の医師ではおそらくまだ私だけです。第二言語で全く未知の学問に触れる難しさを痛感しましたが、現在も診療場面の録画記録を用いて、この研究を継続しています。

心療内科は、多くの先生方にとって“分かりにくい”診療科ではないかと思います。当センターには、心理状態を扱う専門科として精神科と心療内科がありますが、心療内科は身体疾患に心理社会的な要因が強く関与した心身症といわれる病態を、専門的に扱う科です。少し違う言い方をすれば、身体面と心理面のどちらかに偏り過ぎることなく、並列的かつ対等に考慮して治療戦略を考える内科です。一般的に、身体症状の原因となるような器質的異常を認めない場合には、心理面の関与がよく疑われます。しかし、必ずしもこころだけで身体症状が生じるとは限らず、何らかの身体的機能異常によって惹起されていることが多くあります。そしてこの機能異常には、その人の心理面や生活・行動面が実際よく関わってきます。このような病態に対して、自律神経機能異常や中枢レベルでの知覚閾値低下といった身体機能異常を評価しながら、患者自身によるセルフケア方法の習得を目指して診療を行います。

心療内科学講座があるのは、全国で６大学だけです。私の専門は、機能性ディスペプシアや過敏性腸症候群といった機能性消化管障害ですが、その他にも慢性疼痛・頭痛や眩暈、痺れ、冷えなど多様な身体症状に対して、心理士と連携してチーム医療を実践してきました。心療内科は、患者さんにとっても“あまり受診したくない科”であることが多くあります。そのため、先生方からも受診を提案しづらいのではとお察ししますが、どうぞお気軽にご用命ください。和歌山の地で原因不明の症状を患い続けている患者さんをなくすために、若輩ながら尽力して参りますので、ご指導・ご助力のほど心よりお願い申し上げます。

がんセンター通信 ⑩

（頭頸部がんユニット）

耳鼻咽喉科部副部長　辻村　隆司

がんセンター
Cancer Center

普段より医療連携を頂いている施設および関係各所の先生方・スタッフの皆様には日々患者さんのご紹介を含め大変お世話になりまして、誠に有り難うございます。

頭頸部がんユニットでは、現在治療の大きな柱が３つ（手術・放射線・薬物治療）あります。手術治療に関しては低侵襲かつ根治性の高い方法を目指して、様々な術式に取り組んでいます。具体的には当センター単独で行う内視鏡を用いた経口切除（Endo-flexible-rigidscope Transoral Surgery：ETOS）や消化器内科と合同で行う ELPS（Endoscopic Laryngo-Pharyngeal Surgery）があります。いずれも外切開を必要とせず、低侵襲で短期間の入院治療が可能です。

また、薬物治療に関しては近年適応となった免疫チェックポイント阻害剤を中心に使用することにより、今までの抗がん剤よりも副作用を抑えながら長期にわたる制御が可能な症例が増えてきました。さらに甲状腺癌では遺伝子変異の検索による新たな薬剤使用の選択肢も出現しています。

上記の３つの治療方法に加え、新たに当センターでは光免疫療法（アルミノックス治療）が施行可能となりました。これは切除が困難な頭頸部がんに対して、がん細胞と結合する光反応物質を点滴した後にレーザー光を照射することでがん細胞を破壊・壊死させる治療方法です。手術が行えない患者さんや放射線治療が既に行われている患者さんでも適応になるため、今後積極的に行っていくことを考えています。

上述したような複数の治療方法を組み合わせることで、当センターでは様々な病態の患者さんに合わせた最適な治療選択を行うことが可能ですので、引き続き御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和５年度診療科別合同セミナー・講演会実施一覧

当センターでは、各種講演会を実施しています。開催時には、随時ご案内しますので是非ご参加ください。

日時	診療科	会合・講演会名	場所	参加人数（合計）
6月15日（木）	小児科	小児科地域連携講演会	WEB 配信	30名
6月23日（金）	循環器内科	心血管治療連携 WEB フォーラム 2023	WEB 配信	36名
6月26日（月）	脳神経内科	頭痛診療 Up To Date	WEB 配信	17名
6月29日（木）	感染症内科	令和５年度第１回感染対策向上加算に係る合同カンファレンス	WEB 配信	98名

就任のお知らせ

7月1日付

心療内科部　**阿部哲也**（部長）
脳神経外科部　**大江　直**（専攻医）

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお願いします。

退職のお知らせ

5月31日付

血液内科部　**直川匡晴**（部長）
皮膚科部　**大橋理加**（医長）

6月30日付

心療内科部　**今泉澄人**（副部長）
脳神経外科部　**榎本博記**（医師）

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。

紹介初診患者診察担当医師表

2023年７月１日現在

診療科名	月	火	水	木	金
循環器内科	部長 豊福 守	副部長 田﨑 淳一	医長 伊勢田 高寛	医長 辰島 正二郎	医長 藤田 啓誠
	医長 伊勢田 高寛	医長 辻 修平	医長 辻 修平	—	—
	—	《末梢血管外来》	—	—	—
消化器内科	院長 山下 幸孝	主任部長 上野山 義人	副部長 瀬田 剛史	部長 赤松 拓司	主任部長 上野山 義人
	部長 赤松 拓司	副部長 中谷 泰樹	副部長 岩上 裕吉	副部長 松本 久和	副部長 中谷 泰樹
	副部長 瀬田 剛史	医長 小西 隆文	下山 雅之	医長 小西 隆文	副部長 岩上 裕吉
	副部長 松本 久和	中野 省吾	外村 晃平	松山 和輝	荻野 真也
	塙 悠佑	筑後 英紀	押川 大介	脇田 碧	中野 省吾
	上野 昌太朗	—	—	曽根 明日香	佐藤 雄
糖尿病・内分泌内科	部長 金子 至寿佳（第1.3.5週）	副部長 廣畠 知直	部長 金子 至寿佳	副部長 廣畠 知直	副部長 稲葉 秀文
	《交替制》（第2.4週）	—	—	—	—
※血液内科	—	赤木 佑衣奈	部長 岡 智子	—	—
消化器外科	副部長 辰林 太一	副部長 奥村 公一	副部長 一宮 正人	部長 山下 好人	主任部長 安近 健太郎
	医長 山田 真規	医長 金井 理紗	副部長 横山 智至	副部長 川添 准矢	部長 伊東 大輔
	医長 野間 淳之	青山 諒平	副部長 宮本 匠	寺脇 平真	佐倉 悠介
※乳腺外科	副部長 鳥井 雅恵	—	部長 松谷 泰男	副部長 鳥井 雅恵	部長 松谷 泰男
	—		—	松本 純明	—
小児外科	—	医長 金井 理紗	副部長 横山 智至	—	—
※眼科	医長 川島 祐	副部長 三木 敏耶	部長 荻野 顕	医長 原田 康平	部長 荻野 顕
	川島 京子	《交替制》	《交替制》	—	《交替制》
耳鼻咽喉科	部長 三浦 誠	副部長 暁 久美子	部長 三浦 誠	副部長 西村 一成	副部長 辻村 隆司
産婦人科	副部長 山西 優紀央（第1・3・5）	副部長 豊福 彩（第1・3・5）	副部長 寒河江 悠介（第1・3・5）	副部長 坂田 精美（第1・3・5）	副院長 吉田 隆昭
	副部長 山村 省吾（第2・4）	医長 日野 麻世（第2・4）	春日 摩耶（第2・4）	副部長 横山 玲子（第2・4）	—
小児科	部長 儘田 光和	副部長 深尾 大輔	副部長 原 茂登	部長 儘田 光和	坂部 匡彦
	副部長 杉峰 啓憲	坂部 匡彦	副部長 横山 宏司	副部長 杉峰 啓憲	前田 啓祐
泌尿器科	部長 玉置 雅弘	主任部長 伊藤 哲之	《交替制》	部長 玉置 雅弘	主任部長 伊藤 哲之
	副部長 中嶋 正和	副部長 中嶋 正和		医長 山田 祐也	医長 山田 祐也
	硲 達也	副部長 吉川 和朗		髙橋 俊文	副部長 吉川 和朗
腎臓内科	医長 嘉藤 光歩	部長 東 義人	副部長 杉谷 盛太	部長 東 義人	副部長 杉谷 盛太
	小西 諒	医長 嘉藤 光歩	医長 小緑 翔太	前沢 浩司	大森 翔平
	山崎 瑞歩	児玉 健志	—	栃尾 明	—
皮膚科	改正 純一	宮﨑 健	《交替制》	医長 大橋 理加	部長 米井 希
整形外科	部長 玉置 康之	副部長 田中 康之	副部長 田中 慶尚	部長 玉置 康之	副部長 田中 康之
	副部長 田中 慶尚	医長 小椋 隆宏	副部長 古川 剛	医長 小椋 隆宏	副部長 古川 剛
	—	武本 直樹	中田 旭彦	前川 尚大	—
歯科口腔外科	—	副部長 清水 航治	部長 平石 幸裕	副部長 清水 航治	部長 平石 幸裕
		医長 佐武 明日香	—	—	—
※放射線治療科	副部長 小倉 健吾	部長 根来 慶春	—	部長 根来 慶春	副部長 小倉 健吾
	—	立石 雄大		—	立石 雄大
脳神経外科	《交替制》	副部長 武本 英樹	《交替制》	部長 津浦 光晴	—
	部長 津浦 光晴	—	—	《脳血管内治療専門外来》	
※麻酔科	—	副部長 吉村 聖子	医長 宮﨑 里紗	—	副部長 片岩 真依子
呼吸器内科	副院長 杉田 孝和	副部長 阪森 優一	河内 寛明	部長 池上 達義	副部長 寺下 聡
	—	《睡眠時無呼吸専門外来》	濱田 健太郎	—	—
心臓血管外科	部長 金光 尚樹	—	部長 金光 尚樹	—	—
	—		《静脈瘤外来》		
※脳神経内科	部長 山下 博史	副部長 神辺 大輔	部長 山下 博史	山田 健	副部長 神辺 大輔
	湯川 佳代子	孝橋 睦生（隔週）	中村 大和（隔週）	木下 久徳	平田 真也（隔週）
	山中 治郎（隔週）	成宮 悠爾（隔週）	河村 祐貴（隔週）	—	平山 典宏（隔週）
	安達 智美（隔週）		—	—	—
※精神科	部長 東 睦広	—	—	部長 東 睦広	—
形成外科	部長 奥村 慶之	—	成山 晃弘	和田 詩織	成山 晃弘
	《小児形成外科外来》		—	—	—
呼吸器外科	—	部長 石川 将史	副部長 池田 政樹	—	部長 石川 将史
※心療内科	部長 阿部 哲也	—	部長 阿部 哲也	—	部長 阿部 哲也
※リウマチ科（非常勤医師）	秋月 修治（第1・2・4・5）	岡本 翔太	船越 荘平	—	別役 翼
	中島 友也（第2・4）	松宮 遼	納田 安啓		福村 麻紗（第1.3.5週）
※漢方内科	—	—	部長 山田 伸	—	—
感染症内科	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》
※緩和ケア内科（午後）	部長 一宮 正人	吉村 聖子	宇山 志朗	部長 一宮 正人	阿部 哲也
	筒井 一成	—	—	—	—
※腫瘍内科	—	—	—	川上 尚人	—
※遺伝性腫瘍ユニット	—	—	副部長 豊福 彩（午後）	川上 尚人	—

赤字…女性医師　※…完全予約制（当日初診で紹介いただく場合は事前に電話でご相談ください。）

□ はがんセンターユニット担当医師（がん診療以外も対応させていただきます。）